

# 【乳汁検査まとめ】

## はじめに

先月に引き続き、2021年において弊社にて実施した乳汁検査の結果をお伝えしたいと思います。今月はSAやOS等のグラム陽性菌（以下G(+)菌）についてです。

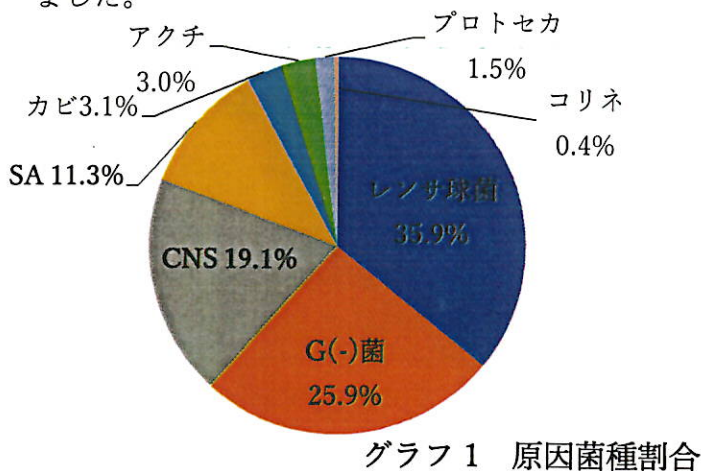
検査頭数は2106頭、検査分房数は4032分房で、菌の生えた分房数は2098分房、菌の検出されなかった分房数は1934分房でした（それぞれ重複を含む）。

## 略語・薬品名対応表

略語	注射薬	軟膏
AM	アンピシリン	—
Cz	セファゾリン注	セファメジン・セファゾリン
K	カナマイシン	タイニーPK
ERFX	バイトリル10%	—
ST	トリオプリン	—
T	OTC注	OTC軟膏

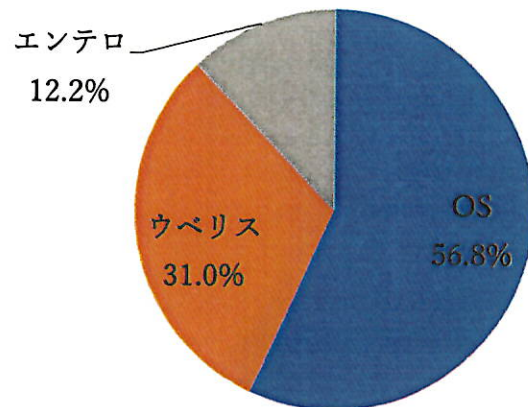
## 原因菌種割合

菌が検出された検体の中で雑菌を除く原因菌種割合を以下に示します。最多はレンサ球菌（※1）で、2番目に多かったのはG(-)菌（※2）でした。次いでCNS、SAと続きます。レンサ球菌、G(-)菌、CNS、SAで全体の約90%を占める結果となりました。



グラフ1 原因菌種割合

- ※1 レンサ球菌にはOS、ウベリス、エンテロコッカスを含む
- ※2 G(-)菌には大腸菌、その他の大腸菌群、クレブシエラ、緑膿菌を含む
- ※ アルカノバクテリウムをアクチ、コリネバクテリウムをコリネ、酵母様真菌をカビと表記



グラフ2 レンサ球菌割合

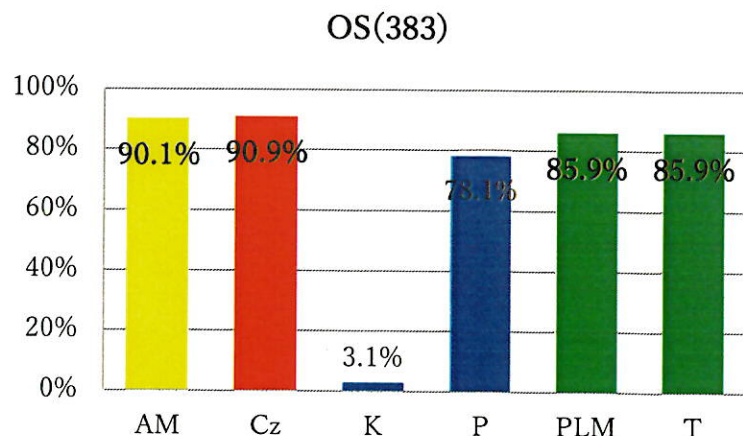
※エンテロコッカスをエンテロと表記

グラフ1にてレンサ球菌としたものの内訳です。レンサ球菌の発生数は674分房です。OSは383分房（56.8%）、ウベリスは209分房（31.0%）、エンテロコッカスは82分房（12.2%）です。

イーザーメディアIIを使用してオンファームカルチャーを実施している場合は、レンサ球菌を疑うコロニーが発育し、尚且つコロニー周囲の培地が黒変した場合はOS以外にウベリスやエンテロコッカスの可能性があります。

## G(+)菌感受性割合

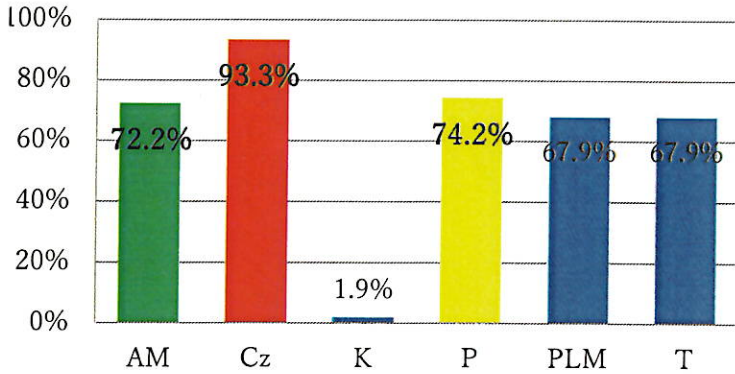
菌種の後ろの（）内の数字は発生数です



### グラフ3 OS 感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン)、PLM(ピルスー)、T(OTC注・OTC軟膏)でした。これらの感受性割合は85%を超えており、特に Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン)は90%を超えています。

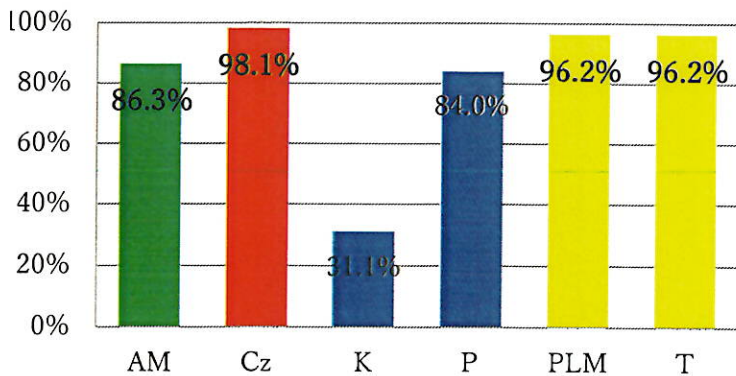
#### ウベリス(209)



#### グラフ4 ウベリス感受性割合

感受性割合の上位3つの薬品は Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、AM(アンピシリン)、P(ペニシリン・ニューサルマイ)です。Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)はOS同様に感受性割合90%を超えています。

#### SA(212)

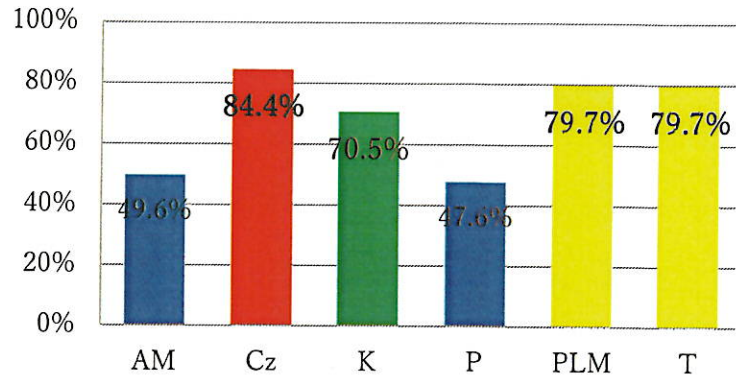


#### グラフ5 SA 感受性割合

感受性割合の上位3つは Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、PLM(ピルスー)、T(OTC注・OTC軟膏)、AM(アンピシリン)です。

どれも85%を超えており、Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、PLM(ピルスー)、T(OTC注・OTC軟膏)は95%越えです。

#### CNS(359)



#### グラフ6 CNS 感受性割合

感受性割合の上位3つは Cz(セファゾリン注、セファミジン・セファゾリン)、PLM(ピルスー)、T(OTC注・OTC軟膏)、K(カナマイシン、タイニール-PK)です。SAよりもバラつきがあり、感受性割合も全体的に約15%低くなっています。

### 最後に

前回・今回と紹介した感受性割合は飼養形態、搾乳方法、自家治療の程度等様々な農場からの検体を検査し、まとめたものです。全ての農場に当てはまるものではありませんので、参考程度にお考え下さい。また、なかなか治らない場合は乳汁検査をお勧めします。G(+)菌なら、とりあえずセファメジン...でも多くの場合は感受性がありますが、絶対ではありません。感受性のない抗生剤での治療を続けるよりも、乳汁検査を行い、感受性のある抗生剤を使用した方が結果的に短期間、低コストの治療で済みます。少しでも治りが悪い、又はおかしいなと思ったらまずは検査してみましょう。乳房炎治療の第一歩は検査からです。

富田大祐



Total Herd Management Service